

議題1 東京PCB 処理事業所 2023 年度上期の処理・設備保全の状況 及び今後の処理見通し

1. 施設の稼働状況
2. PCB 廃棄物の搬入・搬出・処理
3. 搬出源モニタリング及び敷地境界での測定結果
4. 運転時のトラブルの状況とその対応
5. 作業従事者の労働安全衛生について
6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応
7. 教育・訓練等の実施状況
8. 施設見学の状況
9. 2023 年度のこれまでの設備保全の実施状況

1. 施設の稼働状況

2023 年度上期の操業状況については、以下のとおりである。

- ・ 4 月上旬より段階的に各設備・操業を停止し、並行して定期点検工事の開始に向けた点検準備を進めた。
- ・ 定期点検工事(5 月 15 日～6 月 19 日)期間中においても、可能な範囲での廃棄物の受け入れを行った。
- ・ コンデンサーの処理については、No. 2 反応器の定期点検後の再稼働(7 月 6 日)を見越し、6 月 22 日に再開した。
- ・ No. 1 反応器については、上部隔壁の蓋溶接部に亀裂を確認したことから、早急に復旧することで本社と協議中であったが、12 月目途で補修を完了する計画とした。

2023 年 4 月から計画的処理完了期限を終え、事業終了準備期間に入り、変圧器やコンデンサー等の処理対象物の搬入は大幅に低下している。昨年に、こうした状況に対応する処理の方針(表 1)を定め、原則としてこれに則り処理を進めている。

表 1 事業終了準備期間での処理の進め方

処理対象物	処理の方針
変圧器	搬入見合いで都度処理を実施
コンデンサー	搬入見合いで保管量が 30 台程度になった時点で処理を開始し、月に 1～3 回程度にまとめて処理
廃液・廃油(リン含有 PCB 油を除く)	搬入見合いで都度処理を実施
リン含有 PCB 油	2022 年度までに全量を処理終了
廃粉末活性炭	2023 年度下期に 2,500kg/月の処理を計画している。大阪事業所からの受け入れは、年度内で完了する予定。

以上のような処理対象量の減少に伴って東京 PCB 処理施設では不要となる設備が発生する。これらに対しては表 2 に示すような対応をとり、操業の効率化や保守点検の負担軽減、さらには本格解体撤去工事の効率化等を勘案し、事業終了準備期間内に先行的に解体撤去を行う設備とするものもある。

なお水熱設備、洗浄設備、加熱設備、粗解体設備、排気・換気設備については、今後のプラント設備の解体撤去において、PCB の除去便別に際し有効に活用していくこととなる。これらプラント設備は、全体の解体撤去状況を勘案しながら 2026 年度以降に順次、解体撤去を進めていく。

表2 休止・不要設備への対応

休止・不要設備	休止・不要の理由	先行解体撤去への対応
リン含有 PCB 油前処理設備	2022 年度中にリン含有 PCB 油の処理が終了したため	2023 年度中に設備の先行解体を完了する予定
安定器等処理設備	東京事業エリアの安定器は、2016 年度以降は北海道事業所で処理を行っており、現在当該設備は使用していないため	2023～2025 年度に設備の先行解体を実施する予定
コンデンサー処理設備	2023 年度以降は処理台数が減少したことから、当該設備を使用せずに除染室での手解体を実施しているため	2024～2026 年度に設備の先行解体を実施する予定
廃粉末活性炭スラリー化設備	大阪事業所からの受入計画が、2023 年度末までであるため	2024～2025 年度に設備の先行解体を実施する予定
水熱反応設備 No.3 反応器(休止中)	処理量減少により、水熱分解設備の運用を 3 基体制から 2 基体制へ変更し、No.3 反応器を 2022 年 8 月 1 日に休止とした	制御系を設備全体で共有しており、独立した不要設備ではないことから、休止扱いとした
洗浄設備 (17 台中 9 台休止中)	処理量減少により、運転する台数を 17 台から 8 台へ集約した	制御系を設備全体で共有しており、独立した不要設備ではないことから、休止扱いとした

2023 年度上期の操業状況を表 4 に、変圧器、コンデンサー、リン含有 PCB 油処理量、純 PCB 換算処理量の月別の計画と上期の実績を図 1～3 に示す。なお純 PCB 換算の処理重量は、水熱分解の各処理対象物の実測 PCB 濃度に基づいて換算した処理量である(別紙 1 参照)。

変圧器及びコンデンサーの処理見通しについては、東京事業所における処理が 2022 年度末に計画的処理完了期限を迎え、すでに事業終了準備期間に入っていることから、必要に応じて当事業部会にて、最新の情報に更新していくこととしている。今回は JESCO 登録の最新情報を基に資料 2「2023 年度 東京 PCB 処理事業所 今後の処理見通し 第 2 次修正計画；簡略版」のように改訂を行った。第 2 次修正計画を表 3 に、当初計画と対比して掲げている。

前回 2023 年度第 1 回東京事業部会(2023. 8. 10 開催)では廃 PCB 油の処理見直しを見直したが、今回コンデンサーも、当初計画より減少することとなったことから、処理見通しの修正(資料-2)を行い、今後の想定値を追加登録見込み量として加算した。

表3 2023 年度の年間処理計画の見直し

種別	単位	当初計画 *1	第 1 次修正計画 *2 (2023 年 8 月 10 日改訂)	第 2 次修正計画 *3 (2023 年 10 月 30 日改訂)
変圧器	台数	0	0	0
	重量(t)	0.0	0.0	0.0
コンデンサー	台数	593	593	332
	重量(t)	10.424	10.424	8.148
廃 PCB 油 *4	重量(t)	0.01	4.957	4.963
リン含有 PCB 油	重量(t)	0	0	0
廃粉末活性炭	重量(t)	21.6	21.6	21.6
純 PCB 換算処理量	重量(t)	8.9	13.9	12.9

*1：「2022 年度第 3 回東京事業部会(2023. 3. 9 開催)承認」

*2：「2023 年度第 1 回東京事業部会(2023. 8. 10 開催)承認」

*3：「2023 年度第 2 回東京事業部会(2023. 10. 30 開催)報告」

*4：リン含有 PCB 油を含まない。

2023 年上期の操業実績は、2022 年度の計画的処理完了期限の年度末に処理完了となるように 3 月度の処理を実施したこと、3 月度に処理開始して 4 月度に処理完了となる対象物はなかった。また 2023 年度 4 月度には、各設備を停止して定期点検の準備を進めることから、この期間の処理実績はなかった。定期点検工事(5 月 15 日～6 月 19 日)を行い、6 月下旬から段階的に設備稼働をして処理を再開した。コンデンサーの処理実績では、6 月度に投入を開始しているが、処理完了が後段設備の稼働状況から 7 月度となるため、そこからの実績となる。

水熱分解設備の運転状況については、上期の反応器の稼働日数平均は、計画比 176%である。水熱分解設備は、1 基運転で稼働していた No. 2 反応器系を 4 月上旬より定期点検工事準備のため停止した。したがって、No. 1, 2 系は定期点検工事により 5 月～6 月には稼働していない。なお、処理対象量の減少から水熱分解設備は No. 3 を休止し、これまでの 3 基から 2 基体制へ 2022 年 8 月 1 日から変更した(2022 年度第 2 回東京事業部会(2022. 10. 31 開催)にて報告済み)。

No. 1 反応器は 2023 年度定検点検工事からの復旧段階において、反応器内の上部隔壁部に蓋溶接部(隅肉溶接)に亀裂の存在を確認した。当該部位は毎年、反応器内部の点検のために上部隔壁にある蓋を脱着するもので、発生原因は、溶接による熱が繰り返し加わることにより母材の脆化が進み、今年の溶接作業後に亀裂が発生したと推定する(2023 年度第 1 回東京事業部会(2023. 8. 10 開催)にて報告済み)。当該箇所の修繕は、12 月目途で完了する計画である。

No. 2 反応器系は、定期点検後に通常通りの立上げを行い、PCB 処理及び廃粉末活性炭スラリーの処理運転中であり、計画している処理に影響は発生していない。

処理実績では、中間処理を完了してマニフェストを返却したものを計上している。

変圧器については搬入対象がなく、2023 年度上期の実績は 0 台である。

コンデンサーの処理見通しは、当初計画では 593 台としていたが、以下のように想定して見直した。すなわち、2023 年度上期の新規発見台数が 129 台であったことから、2023 年度下期の想定値はこれと同様の 129 台とし、上期の処理実績値 106 台とあわせて年間 235 台とした。さらに 2023 年度上期から下期への繰り越し分 97 台を加え、総量を 332 台とした。

廃 PCB 油(リン含有 PCB 油を除く。リン含有 PCB 油の処理は 2022 年度に終了している。)の 2023 年度上期の処理実績は 4, 957kg であり、そのうち 4, 947kg は 1 件の保管事業者にて発見されたものである。

下期に 6kg 分の処理が予定されており、修正計画は 4, 963kg とした。

操業開始時からの処理状況を表 5 及び図 4～8 に示す。図 4～8 には「2023 年度処理見通し 第 2 次修正計画；簡略版」に基づいた年度内の処理見通しも示している。

全体として、2023 年度 9 月までの累計進捗率(中間処理終了ベース)は、変圧器が 100%、コンデンサーが 99. 4%、廃 PCB 油(リン含油 PCB 油を除く)が 100%、リン含有 PCB 油 100%、廃粉末活性炭が 93. 5%となっている。

表 4 2023 年度上期の操業状況

設備等		2022年度 累計	2022年度 9月迄	2023年度												2023年度 累計実績 (上期分)	2023年度 当初計画 (上期分)	計画比% (累計実績/処 理見通し)	2023年度 10月1日時 点での処理 見通し (上期分)	計画比% (累計実績/10 月1日時点処 理見通し)	前年同期 比 %	
				実績						計画												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
水熱設備 稼働日数	平均	106	33													30	17 ^{*1}	176	30 ^{*1}	100	91	
	1	185	67	*5	定期点検 5/15-6/19	*6										0	40 ^{*1}	0	0 ^{*1}	-	0	
	2	112	12	→ *7		*8											90	11 ^{*1}	818	90 ^{*1}	100	750
	3	20	20	*9												0	0 ^{*1}	-	0 ^{*1}	-	0	
受入物	変圧器	台数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		重量 kg	2,170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		現地抜油 kg ^{*2}	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	0	(0)	0	(0)	-	0
	コンデンサー	台数	2,043	1,527	0	0	0	68	23	15	38	38	37	38	38	37	106	227	47	106	100	7
		重量 kg	79,550	60,651	0	0	0	2,404	565	433	798	798	777	798	798	777	3,402	4,038	84	3,402	100	6
		廃PCB油	重量 kg ^{*3}	1,558	1,520	10	0	0	4,947	0	0	6	0	0	0	0	0	4,957	10	49,179	5,180	100
	リン含有PCB油	重量 kg	245	245	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
	廃粉末活性炭	重量 kg ^{*4}	29,764	7,428	0	0	1,030	1,594	1,793	2,395	2,465	2,465	2,464	2,465	2,464	6,812	2,400	284	6,812	100	92	
	純PCB換算 処理量 kg		43,031	29,741	10	0	206	6,324	607	670	850	844	835	844	844	835	7,817	2,267	345	7,807	100	26

*1: 各修正計画における水熱分解設備の稼働日数。

*2: 変圧器現地抜油の()の重量は、変圧器重量の内数である。

*3: 廃PCB油にはリン含有PCB油を含まない。

*4: スラリー化処理した廃粉末活性炭の重量である。

*5: 3/29～定期点検に向け停止。

*6: 水熱隔壁の扱い検討中のため停止。

*7: 4/10～定期点検に向け停止。

*8: 7/6立上げ。

*9: 2022年8月1日～休止。

表 5 操業開始時からの処理状況

処理対象物	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度9月迄	累計	対象数量	進捗率 (%)
変圧器(台)	122	0	86	238	268	357	415	450	512	328	295	262	147	149	67	25	76	2	0	3,799	3,799	100.0
コンデンサー(台)	573	46	687	2,256	3,395	4,823	4,820	5,902	6,331	6,722	6,902	6,675	6,797	7,851	6,794	5,319	7,189	2,043	106	85,231	85,715 ^{*1}	99.4
廃PCB油(kg)*2	10,395	0	0	761	428	0	6,921	572	817	858	1,055	1,370	7,803	19,645	12,769	6,254	8,624	1,558	4,957	84,786	84,792	100.0
リン含有PCB油(kg)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25,742	104,122	151,705	245	0	281,814	281,814	100.0
廃粉末活性炭(kg)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,616	0	26,708	40,098	50,222	21,942	26,478	29,764	6,812	212,640	227,448	93.5

*1: 2023年10月1日時点におけるJESCO東京事業エリアでの登録量(ただし、コンデンサーには、3kg未満の登録品(944台、今後は北海道事業所で安定器とともに処理)及び北九州事業所で処理することとなった6,925台は含まない。)に、追加登録見込量387台を加えたもの。

*2: トランス抜油以外の廃PCB油で、現地抜油後の現地解体前の洗浄油、リン含有PCB油は含めない。

※変圧器およびコンデンサーの試運転物の台数は各処理年度に含めた。

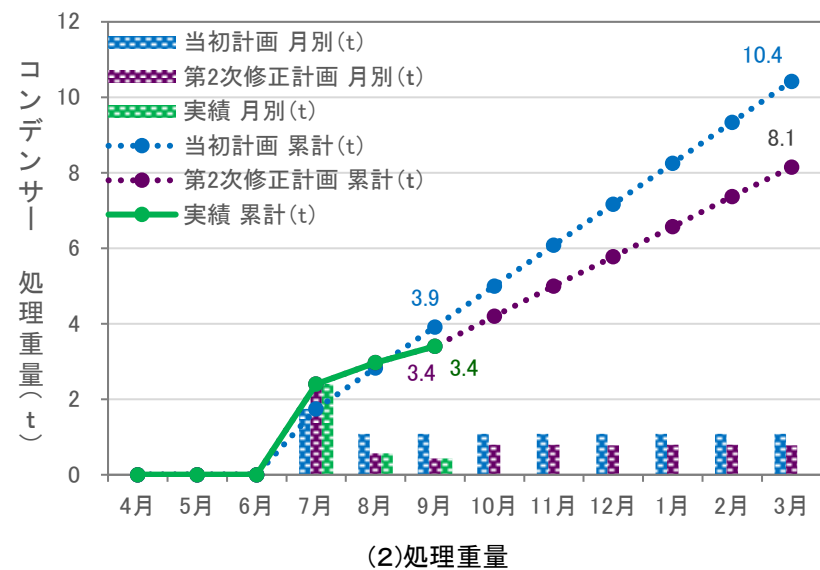
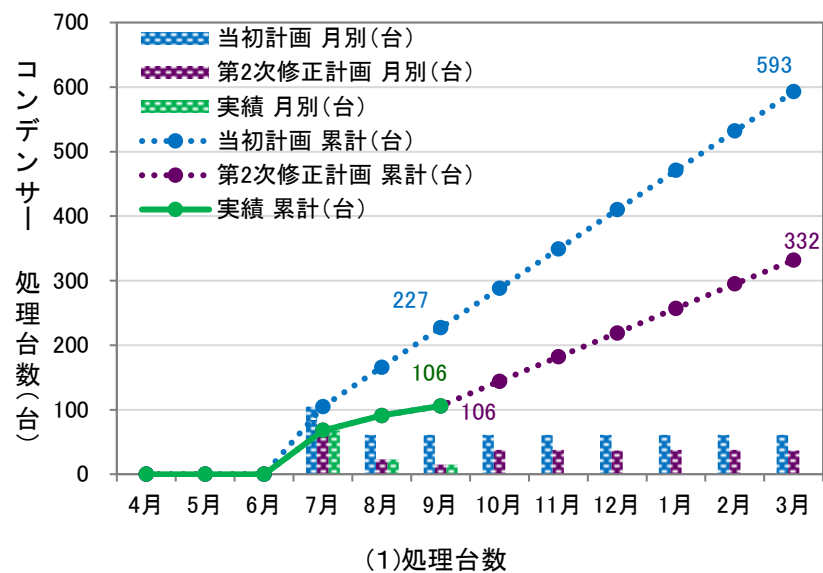


図1 2023 年度(9 月まで)のコンデンサー処理の月別・累計値(計画と実績比較)

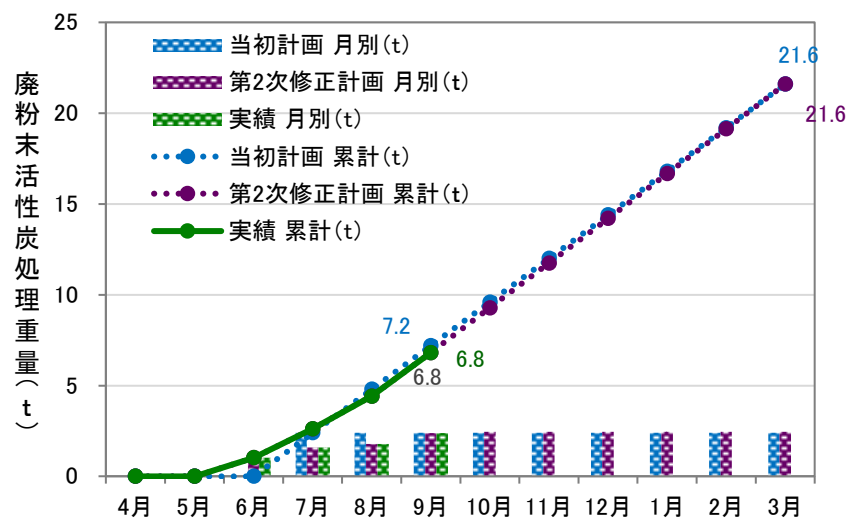


図2 2023 年度(9 月まで)の廃粉末活性炭処理重量の月別・累計値(計画と実績比較)

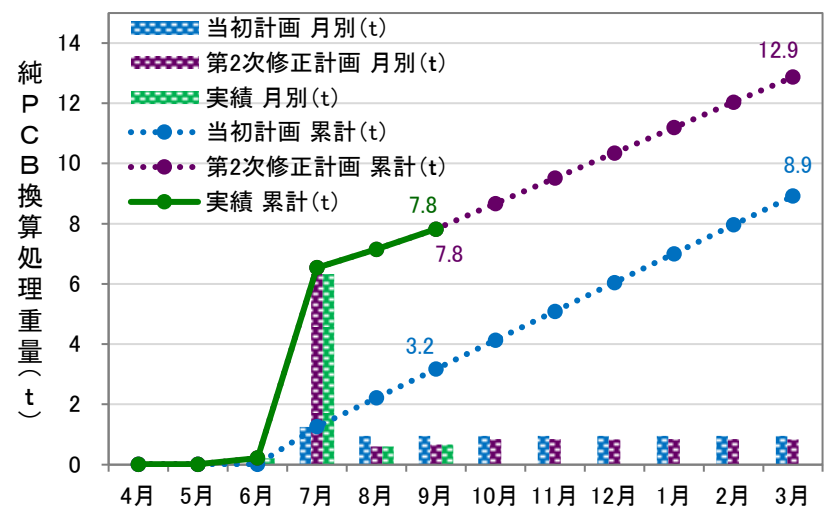


図3 2023 年度(9 月まで)の純 PCB 換算処理重量の月別・累計値(計画と実績比較)

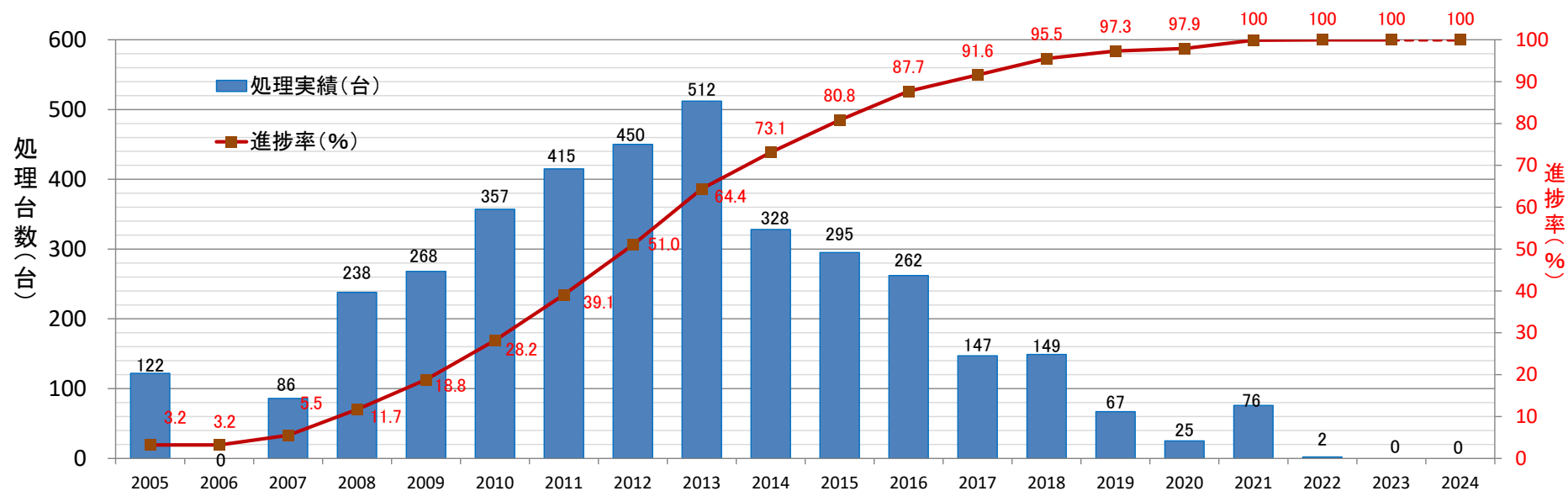


図4 変圧器の操業時からの処理実績と今後の処理計画

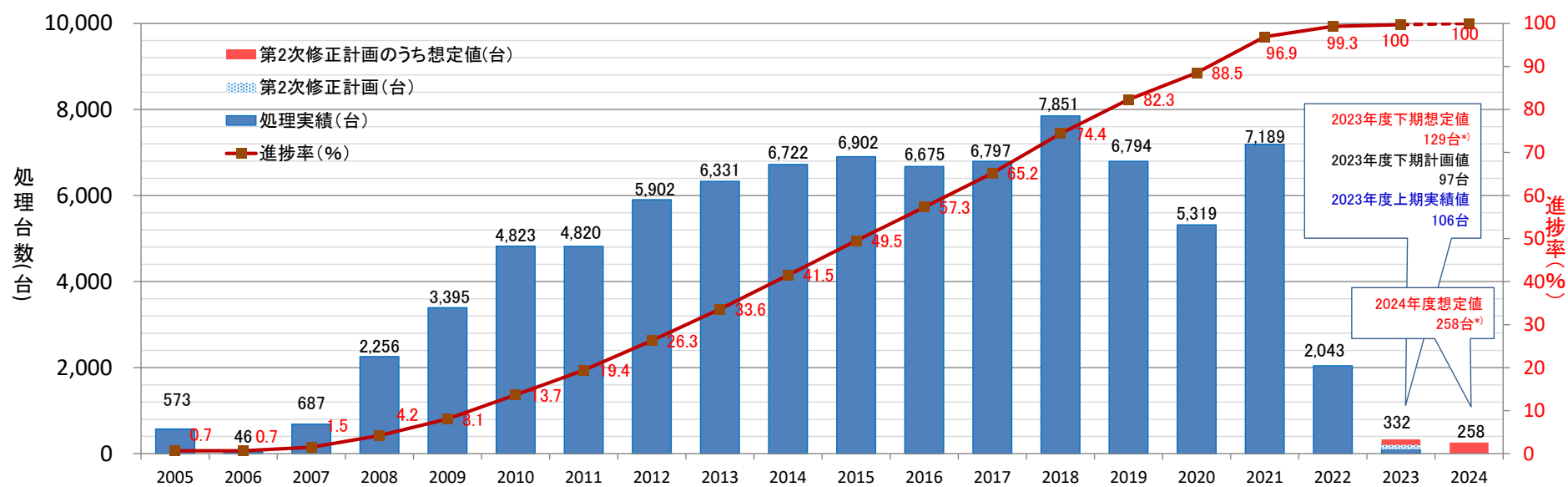


図5 コンデンサーの操業時からの処理実績と今後の処理計画

*2023年度上期の新規登録台数が129台であったことから、第2次修正計画にて2023年度下期の新規登録想定値も129台、2024年度年間の新規登録想定値は258台とした

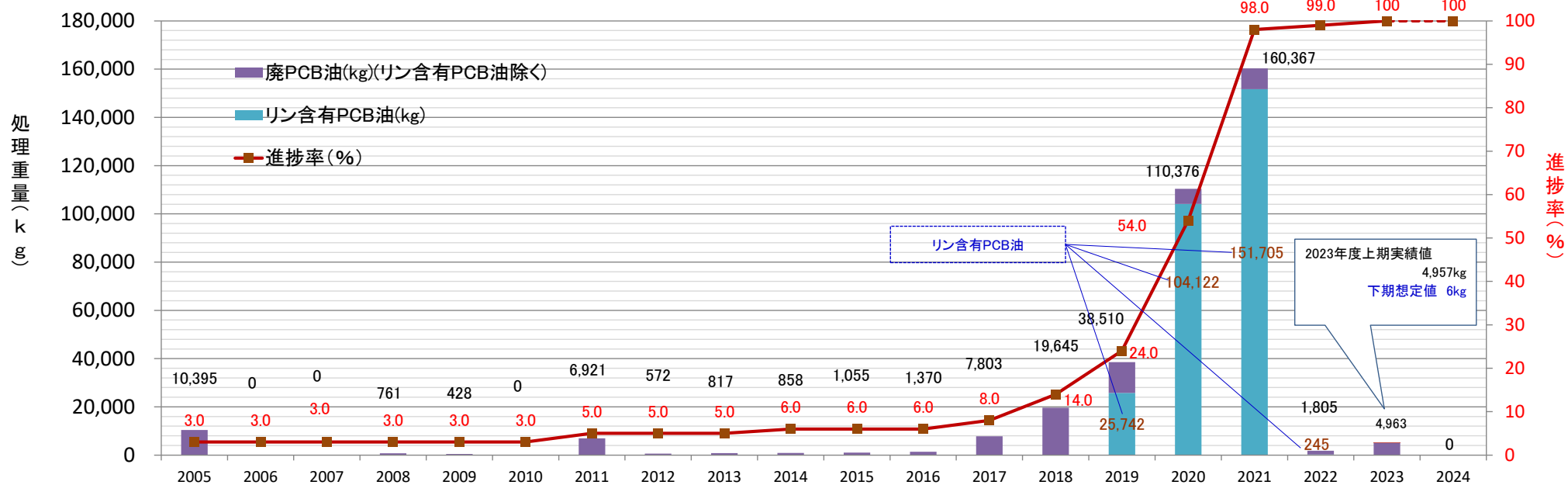


図6 廃 PCB 油の操業時からの処理実績と今後の処理計画

(リン含有 PCB 油を含む)

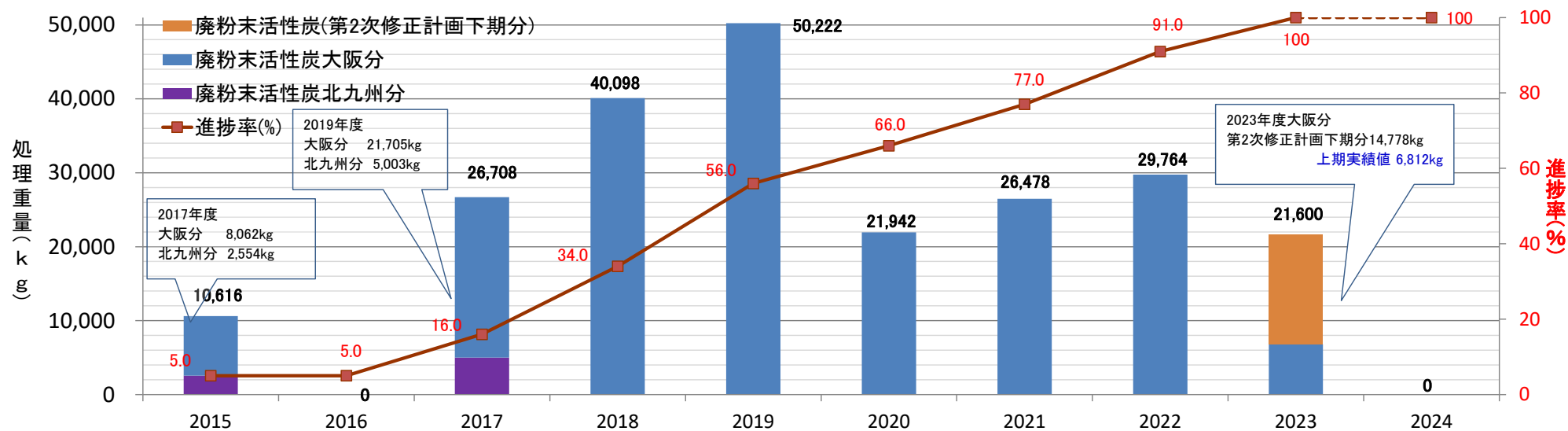


図7 廃粉末活性炭の処理開始(2015 年度)以降の処理実績と今後の処理計画

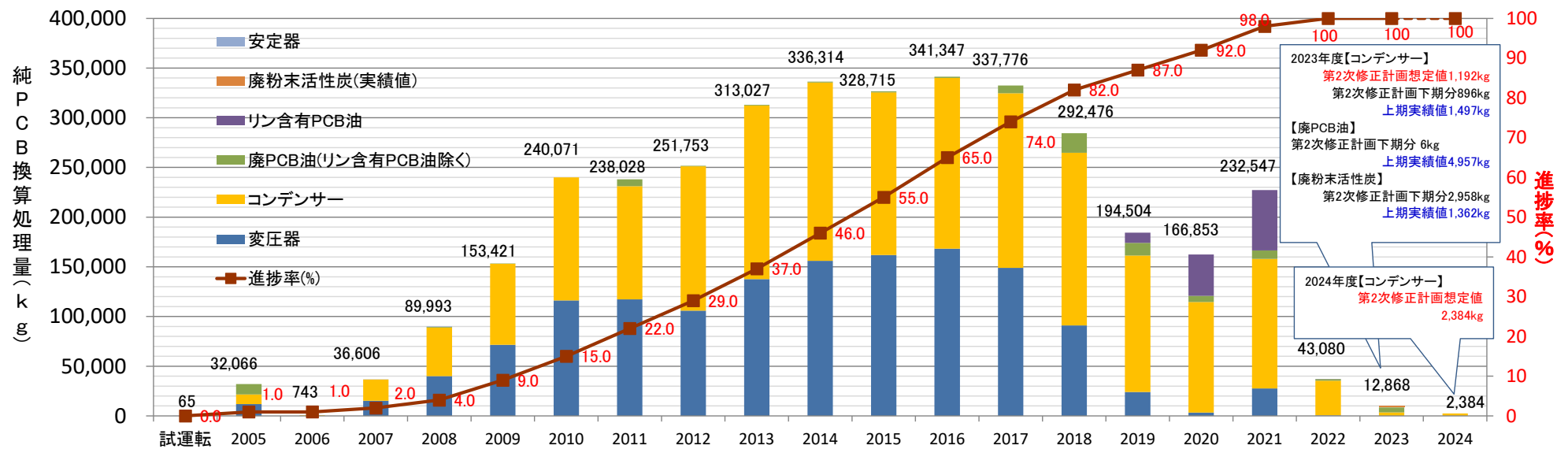


図8 操業時からの純 PCB 換算処理実績と今後の処理計画

2. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

1)PCB廃棄物搬入車両の状況

2023 年度上期の月別 PCB 廃棄物搬入車両台数及び大阪 PCB 処理事業所からの廃粉末活性炭の搬入車両台数を表 6 に、北九州 PCB 処理事業所からの廃粉末活性炭の搬入を含めた年度別の搬入車両台数の推移を表 7 に示す。

今年度は定期点検(5 月 15 日～6 月 19 日)中においても、可能な範囲で PCB 廃棄物の受け入れを実施した。

引き続き、関係法令や PCB 廃棄物収集・運搬ガイドライン、受入基準に基づく入門許可手続き、PCB 収集運搬計画書による事前の確認、PCB 廃棄物の収集運搬時の安全性の高い運搬容器の使用、運搬中の GPS システムを利用した監視等により、安全な搬入体制を確保していく。

表6 2022 年度上期の PCB 廃棄物搬入車両の台数

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年度累計
搬入車両台数	5	7	6	14	10	9	51
大阪事業所から	0	0	1	1	1	1	4

* 北九州事業所からの廃粉末活性炭の処理は2015年度で終了した

表7 年度別の PCB 廃棄物搬入車両の台数の推移

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 *
搬入車両台数	526	644	845	731	807	872	821	833	798	696	662	925	227	51
大阪事業所から	—	—	—	—	—	7	0	13	20	21	11	14	15	4
北九州事業所から	—	—	—	—	—	3	0	0	0	0	0	0	0	3

* 2023年度は9月末までの数値

2)二次廃棄物(低濃度汚染物)の搬出実績

2023 年度上期の二次廃棄物等の搬出状況を表 8 に、月別搬出実績、年度別搬出実績を表 9 に示す。

操業に伴って発生する二次廃棄物(低濃度汚染物)については、東京都ならびに江東区との間で搬出【月 6 台以下、搬出数量は約 30t 以下】の運用を取り決めており、その範囲内で対応している。

解体撤去工事に伴って発生する解体廃棄物(低濃度汚染物)の搬出については、初回搬出時に東京都、江東区と協議し、あらかじめ安全な運搬についてご理解を得た上で進めている。なお、二次廃棄物の月間搬出量の取り決めとは別に解体撤去物の数量把握を実施し、東京都、江東区への定例の月次報告書において月間払い出し数量を報告している。

表8 二次廃棄物等の搬出状況(上期分)

月・日		搬 出 先	種 別	運転廃棄物・処理物		解体廃棄物
				低濃度 数量(t)	高濃度 数量(t)	低濃度 数量(t)
4月	11日	(株)群桐エコロ	運転廃棄物(保護具)	0.471		
			処理物(紙・木)	1.627		
	25日	(株)群桐エコロ	運転廃棄物(保護具)	0.786		
			処理物(紙・木)	1.383		
	27日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.357		
	計		トラック台数 3台(低濃度 3台)	9.624	0.000	0.000
5月	11日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	4.729		
	17日	(株)群桐エコロ	運転廃棄物(紙・布、保護具、ゴム手袋)	1.961		
	18日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.872		
	計		トラック台数 3台(低濃度 3台)	12.562	0.000	0.000
6月	8日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.656		
	15日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.804		
	20日	(株)群桐エコロ	運転廃棄物(アルカリ中和汚泥)	3.150		
	計		トラック台数 3台(低濃度 3台)	14.610	0.000	0.000
7月	13日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.777		
	20日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.640		
	27日	杉田建材(株)	運転廃棄物(保護具、ゴム手袋、廃プラ類)	3.154		
	計		トラック台数 3台(低濃度 3台)	14.571	0.000	0.000
8月	10日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.863		
	22日	(株)群桐エコロ	運転廃棄物(紙・布、保護具、ゴム手袋、塵芥混合物)	2.637		
			処理物(紙・木)	0.207		
	24日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.858		
	29日	杉田建材(株)	運転廃棄物(アルコール含浸紙)	0.828		
			解体廃棄物(保温材)			0.372
	計		トラック台数 4台(低濃度 4台(解体分混載 1台)、高濃度 0台)	15.393	0.000	0.372
9月	14日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.984		
	21日	杉田建材(株)	運転廃棄物(廃活性炭)	5.901		
	26日	光和精鋳(株)	解体廃棄物(金属くず、廃プラ)			3.141
			運転廃棄物(金属くず、廃プラ)	2.072		
	28日	杉田建材(株)	解体廃棄物(保温材)			0.429
			運転廃棄物(保護具類)	0.385		
計		トラック台数 4台(低濃度 4台(解体分混載 2台))	14.342	0.000	3.570	
上期計				81.102	0.000	3.942

・赤字は解体廃棄物

表9 二次廃棄物等の搬出実績(上段:2023 年度、下段:年度別推移)

月度		4		5		6		7		8		9		2023年度累計*2
搬出重量*1 kg	運転廃棄物/ 処理物	9,624		12,562		14,610		14,571		15,393		14,342		81,102
	解体廃棄物	0		0		0		0		372		3,570		3,942
年度		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023*2	累計	
搬出重量*1 kg	運転廃棄物/ 処理物	216,565	363,130	354,873	292,399	234,747	184,472	203,896	353,229	495,128	184,519	81,102	2,964,060	
	解体廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,942	3,942	

*1 容器は含まない。

*2 2023年度は9月末までの数値

3)二次廃棄物(高濃度汚染物)の搬出実績

二次廃棄物(高濃度汚染物)については、2014 年 6 月の「PCB 廃棄物処理基本計画」の変更により東京事業所では処理が困難なものは北海道事業所で処理することとなった。北海道事業所の計画的処理期限(2024 年 3 月末)までの高濃度 PCB 廃棄物の最大受け入れ量は 160t であるが、2022 年度までは削減目標 100t 以下を下回る 76t までとして進めてきた。

高濃度二次廃棄物には、過去にドラム缶に収納して保管されているものもあり、これらは内容物を確認して北海道事業所へ払出対象に仕分けし、搬出を実施する。2023 年度の北海道事業所への搬出計画は 16t となる。

なお 2023 年度の北海道事業所への実際の搬出は、先方の操業計画に基づき、11 月から開始する予定である。このため 4 月から 9 月末までの搬出実績はない。

2023 年 9 月までの実績、及び年度別搬出実績を表 10 に示す。

表 10 高濃度廃棄物の北海道事業所への搬出実績(上段:2023 年度、下段:年度別推移)

月度	4	5	6	7	8	9	2023年度累計*	
搬出重量 kg	0	0	0	0	0	0	0	
年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 9月まで*	累計
搬出重量 kg	1,510	5,834	4,222	3,747	20,172	40,575	0	76,060

* 2023年度9月末までの数値

4)二次廃棄物(事業所内処理物)の処理実績

二次廃棄物の事業所内処理物とは、洗浄処理した金属およびプラスチックを指す。具体的な処理対象物としては、工事やメンテナンスにより発生した熱交換機器や配管の工事廃材等である。

二次廃棄物(事業所内処理物)については、東京事業所において洗浄処理を行い、PCB の付着がない状態で有価物として払い出している。2022 年度上期の月別処理実績および年度別処理実績を表 11 に示す。

なお本年 7 月より、設備解体撤去前段の除去分別に伴う解体撤去物が発生していることから、これを付記する。解体撤去物の対象も配管等の金属類である。

表 11 二次廃棄物(事業所内処理物)の処理実績(上段:2023 年度、下段:年度別推移)

月度	4		5		6		7		8		9		累計	
処理重量(kg)	473		0		0		6,601 (25)		0 (0)		2,644 (211)		9,718 (236)	
年度	2006～9	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
処理重量(kg)	0	10,746 (1,076)	15,767 (1,312)	12,122	14,746	11,472	21,267 (36)	41,613	47,080 (20)	33,935 (86)	26,766 (135)	52,190 (20)	25,739 (0)	41,299 (0)

()は洗浄処理したプラスチック運転廃棄物で二次廃棄物(事業所内処理物)重量の内数である。その他は金属運転廃棄物である。

3. 排出源モニタリング及び敷地境界での測定結果

施設からの排気・換気や排水及び敷地境界の大気や雨水については定期的に測定を行い、処理状況とともに、東京都及び江東区へ毎月報告している。

敷地境界の大気質及び雨水排水の測定位置は図 9 とおりであり、2023 年度上期の環境モニタリング詳細一覧を「別紙 2」に示す。

概要は以下のとおりである。

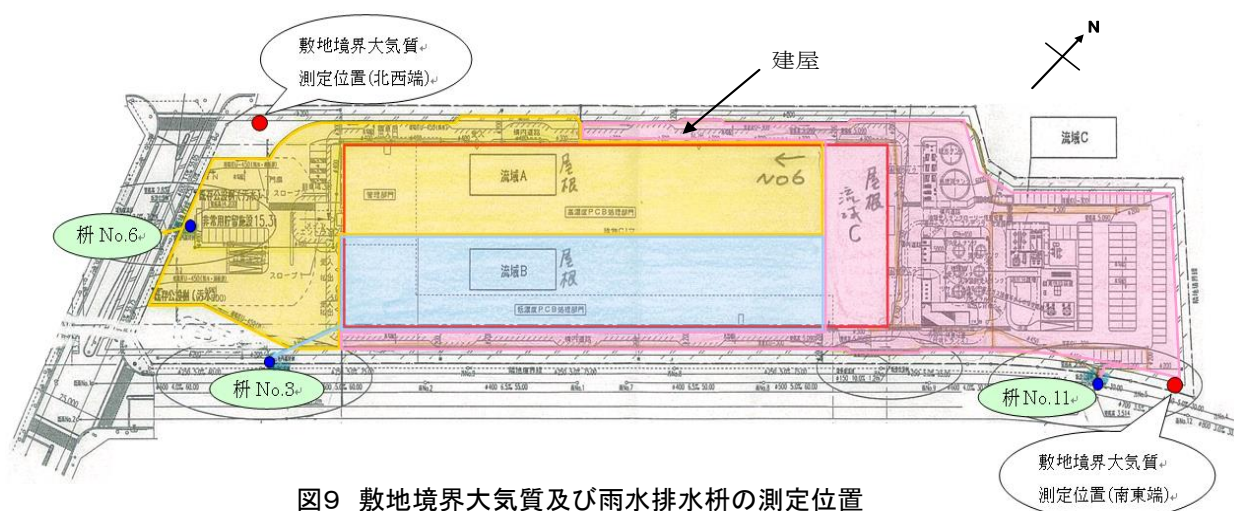


図9 敷地境界大気質及び雨水排水柵の測定位置

1)排気・換気

2022 年度と 2023 年度 9 月度までの排気・換気の測定結果を表 12 に、その詳細は別紙 2 に示す。

すべて環境保全協定値を下回り、良好な状態を維持している。

表 12 排気・換気の測定結果

測定場所	測定項目	単位	測定結果		環境保全協定値	測定頻度
			2022年度	2023年度		
排気系統1 (水熱分解・洗浄系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満～0.0010	0.0005未満～0.00070	0.01以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.0025～0.016	0.0026～0.0071	100以下	年4回
	IPA	ppm	0.3	0.1未満	40以下	年2回
排気系統2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満～0.0017	0.0005未満～0.00070	0.01以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.55～11	0.66～0.86	100以下	年4回
換気系統1 (水熱分解・洗浄系)	PCB	mg/Nm ³	0.00010～0.00030	0.00009～0.00064	0.001以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.013～0.15	0.032～0.16	5以下	年4回
換気系統2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.00015～0.00052	0.00008～0.00019	0.001以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.023～0.70	0.049～0.22	5以下	年4回

※ DXNsは、協定の年間2回に対し、自主測定も含め年4回(4月,7月,10月,1月)実施している。PCBは、協定の年間4回に対し、自主測定も含め毎月実施している。

2)排水

2022年度と2023年度9月までの排水の測定結果を表13に、その詳細は別紙2に示す。
すべて環境保全協定を下回り、良好な状態を維持している。

表13 排水の測定結果

測定項目	単位	測定結果		環境保全 協定値等	測定頻度
		2022年度	2023年度		
PCB	mg/ℓ	0.0005未満	0.0005未満	0.0015以下	月1回
pH	—	7.8～8.1	7.8～8.3	5を超え9未満	月1回
n-Hex抽出物質	mg/ℓ	1未満～1	1未満	5以下	月1回
BOD	mg/ℓ	1.0～7.4	0.5未満～3.5	600未満	月1回
SS(浮遊物質)	mg/ℓ	1未満～14	2～7	600未満	月1回
N(全窒素)	mg/ℓ	3.0～6.5	3.5～6.2	120未満	月1回
DXNs	pg-TEQ/ℓ	0.16～0.49	0.02～1.0	5以下	年2回
Zn(亜鉛)	mg/ℓ	0.06～0.24	0.05未満～0.10	2以下	月1回
P(リン)	mg/ℓ	0.06未満～0.16	0.06未満～0.15	16未満	月1回

3)敷地境界の大気質

敷地境界の大気質 PCB 濃度に関し、直近4回の測定結果を表14に示す。
すべて定量下限値(0.00005mg/m³)未満で、管理指標としている暫定濃度を下回っている。

表14 敷地境界の大気測定結果(PCB)

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	暫定濃度	測定頻度
PCB mg/m ³	南東端	2023.1.19～26	0.00005未満	北北東	0.0005 以下	年4回
		2023.4.5～12	0.00005未満	南西		
		2023.7.13～20	0.00005未満	西南西		
		2023.10.4～11	0.00005未満	北		
	北西端	2023.1.19～26	0.00005未満	北北東	0.0005 以下	年4回
		2023.4.5～12	0.00005未満	南西		
		2023.7.13～20	0.00005未満	西南西		
		2023.10.4～11	0.00005未満	北		

※ 暫定濃度は環境庁大気保全局長通達(昭和47年環大気141号)に基づく。

敷地境界の大気質 DXNs 濃度に関し、直近4回分の測定結果を表15に示す。直近4季平均値は管理指標としている年間平均値で評価する環境基準値(0.6pg-TEQ/m³)以下であった。

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	年平均値	環境基準値	測定頻度
DXNs pg-TEQ/m ³	南東端	2023.1.19～26	0.020	北北東	0.147	年平均 0.6以下	年4回
		2023.4.5～12	0.380	南西			
		2023.7.13～20	0.180	西南西			
		2023.10.4～11	0.0084	北			
	北西端	2023.1.19～26	0.017	北北東	0.223	年平均 0.6以下	年4回
		2023.4.5～12	0.520	南西			
		2023.7.13～20	0.340	西南西			
		2023.10.4～11	0.013	北			

※ 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、現在は自主測定として年4回実施している。

表15 敷地境界の大気測定結果(DXNs)

敷地境界大気質 DXNs 濃度の推移を図10示す。

2019 年 7 月の北西端 1.9pg-TEQ/m³ の高値の高値出現以降も南風が主風向となる夏に濃度が高い傾向は継続しており、引き続き推移を注視していく。

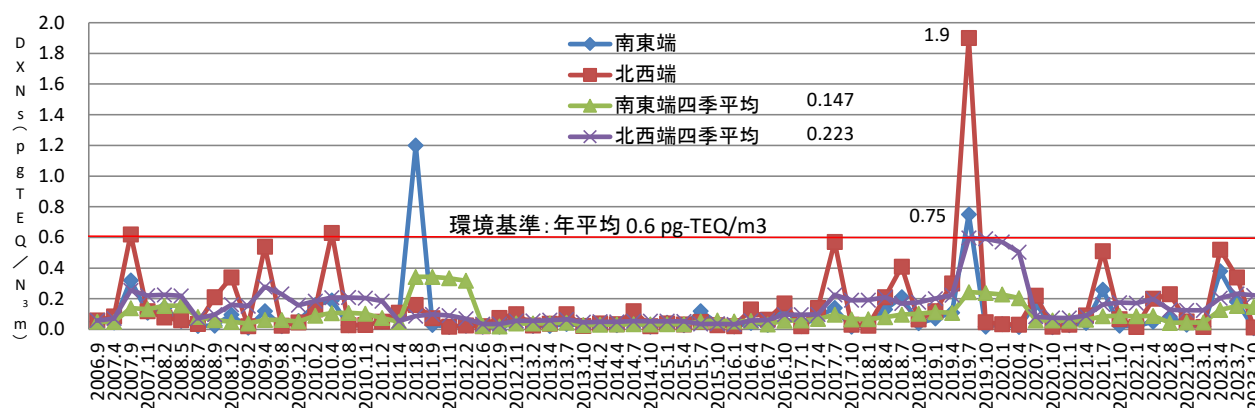


図 10 敷地境界の大気測定結果の推移(DXNs)

4)雨水

2022 年 2 月及び 2022 年 8 月測定 of 雨水中 PCB と DXNs 濃度を表 16 に示す。いずれも自主管理目標値(環境保全協定値)を下回っていた。

また、雨水の DXNs のこれまでの濃度推移を図 11 に示す。夏に濃度が高い傾向が継続しており、引き続き推移を注視していく。

表 16 雨水の PCB と DXNs の測定結果

測定箇所	測定項目	単位	測定日	測定結果	自主管理目標値	測定頻度
No.3雨水枡	PCB	mg/ℓ	2023.8.23	不検出	0.0015以下	年2回
			2023.10.11	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2023.8.23	0.93	5以下	年2回
			2023.10.11	0.35		
No.6雨水枡	PCB	mg/ℓ	2023.8.23	不検出	0.0015以下	年2回
			2023.10.11	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2023.8.23	1.20	5以下	年2回
			2023.10.11	0.022		
No.11雨水枡	PCB	mg/ℓ	2023.8.23	不検出	0.0015以下	年2回
			2023.10.11	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2023.8.23	0.70	5以下	年2回
			2023.10.11	0.90		

* 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、自主測定を含め年2回実施している。

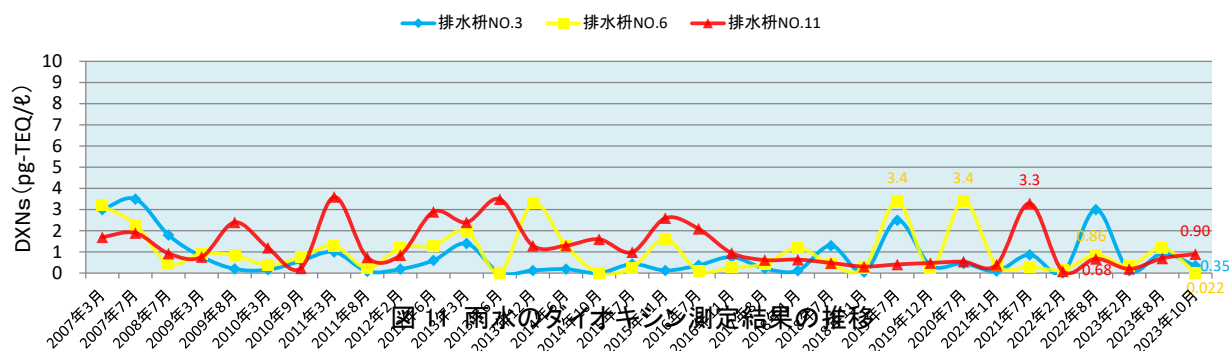


図 11 雨水のダイオキシン測定結果の推移

4. 運転時のトラブルの状況とその対応

標準作業手順書の遵守、巡視点検による不具合の予兆管理と適切な設備保全等を徹底し、また東京事業所のトラブル事例研修等の教育、他事業所トラブルの水平展開等を着実に実施した結果、2023 年度上期では運転時のトラブルの発生はなかった。

なお No. 1 反応器では、先にも記載した通り、2023 年度の定期点検において、反応器内の上部隔壁部に蓋溶接部(隅肉溶接)に亀裂の存在を確認した(2023 年度第 1 回東京事業部会(2023. 8. 10 開催)にて報告済み)。当該箇所の修繕は、12 月目途で完了する計画である。

5. 作業従事者の労働安全衛生について

1)作業環境の測定結果

毎年 2 回(1 月及び 8 月頃)、法定の作業環境測定を外部分析機関に委託して実施していた。。

図 12 に変圧器、図 13 にコンデンサーの主な作業場の作業環境中の PCB 濃度を示す。なお、夏季には各作業環境で冷房を行っているが、それでも冬季に比べて気温が高く、PCB 濃度も高くなっている。

法定測定は、「除染室」(別紙 3「0-B1」)とコア解体室の 2 箇所の作業場(「コア解体鉄心解体(囲い場)」(同 2-B3)、「コア解体小物解体(囲い場)」(同 2B-12))の計 3 箇所について行っていたが、2023 年度上期は当該箇所を含めコア解体室全体で対象となる廃棄物がなかったことから、作業環境測定を実施していない。

またコンデンサーについては、2022 年度下期より除染室にて解体作業を行っている。このため実質的にコンデンサー解体室は使用していないことから、作業環境測定を実施していない。

この代わりに、2022 年度以降の除染室における作業環境測定結果をグラフに付記する。

作業環境改善については、従来より JESCO 及び運転会社協同のワーキンググループによる取り組みを継続してきた経緯がある。

今後も解体撤去作業に臨むにあたり、作業場の清掃の徹底、定期的な床面のポリッシャー掛けなどを通じて、作業環境濃度の低減に努めていく。

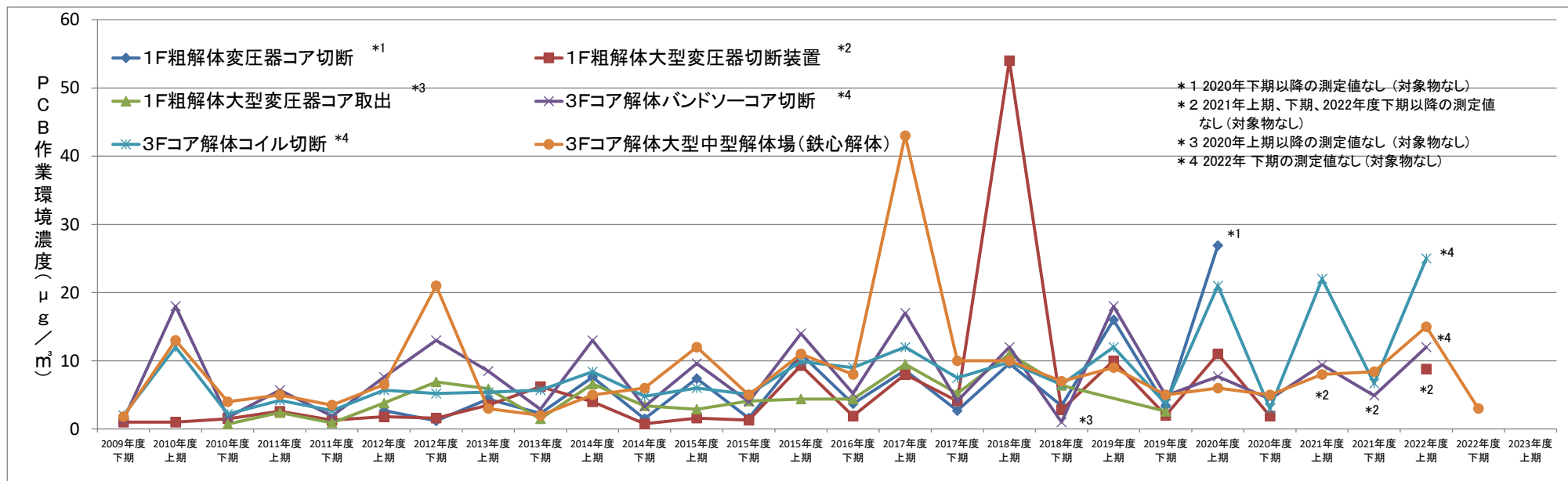


図 12 変圧器の主な作業場の作業環境中の PCB 濃度の推移

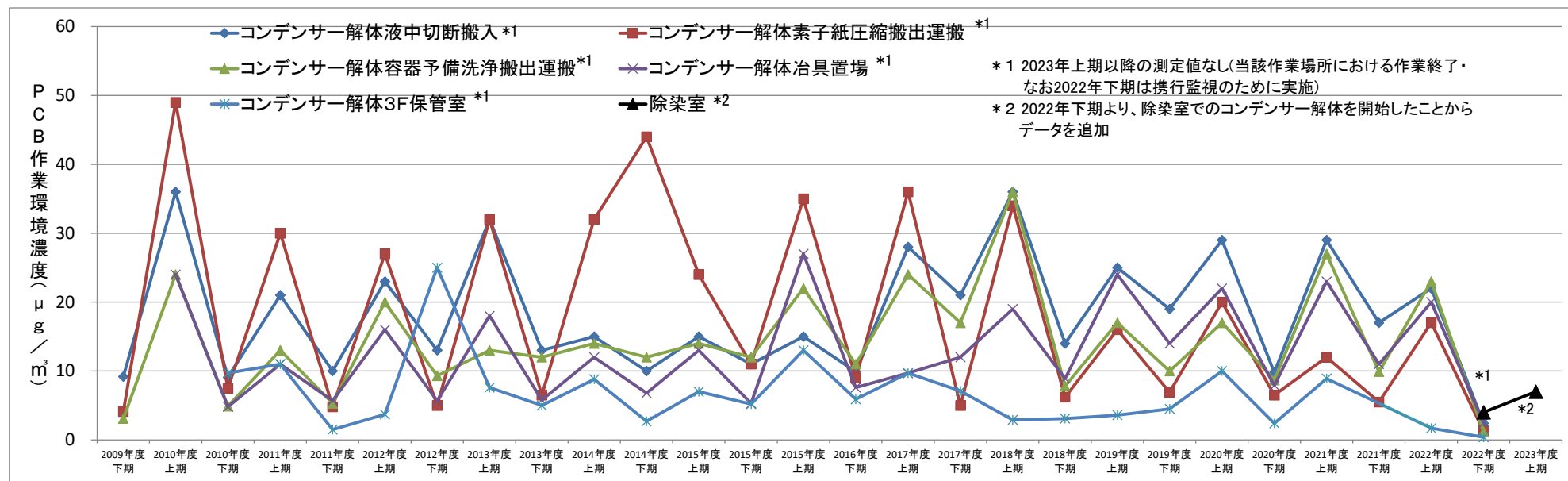


図 13 コンデンサーの主な作業場の作業環境中の PCB 濃度の推移

(1) 血液中 PCB 濃度の管理

具体的には保護具の除染、作業着の小まめな取り換え、手洗い等の基本的な PCB 暴露防止対策の徹底に関する教育及び指導を繰り返し行っている。また適宜、保護マスクの PCB 汚染検査(拭き取り試験)を行い、除染が不十分な作業従事者には個別指導を行うなど、きめ細かな管理を行っている。

自主管理目標値 10ng/g-血液を超過した場合には、配置換え及び作業制限により、PCB 暴露のない作業に従事させ、血液中 PCB 濃度測定を毎年 8 月の定期測定の他に、2 月にも実施して経過観察を行っており(図 14 参照)、血液中 PCB 濃度管理は概ね適切に行われていると考えられる。

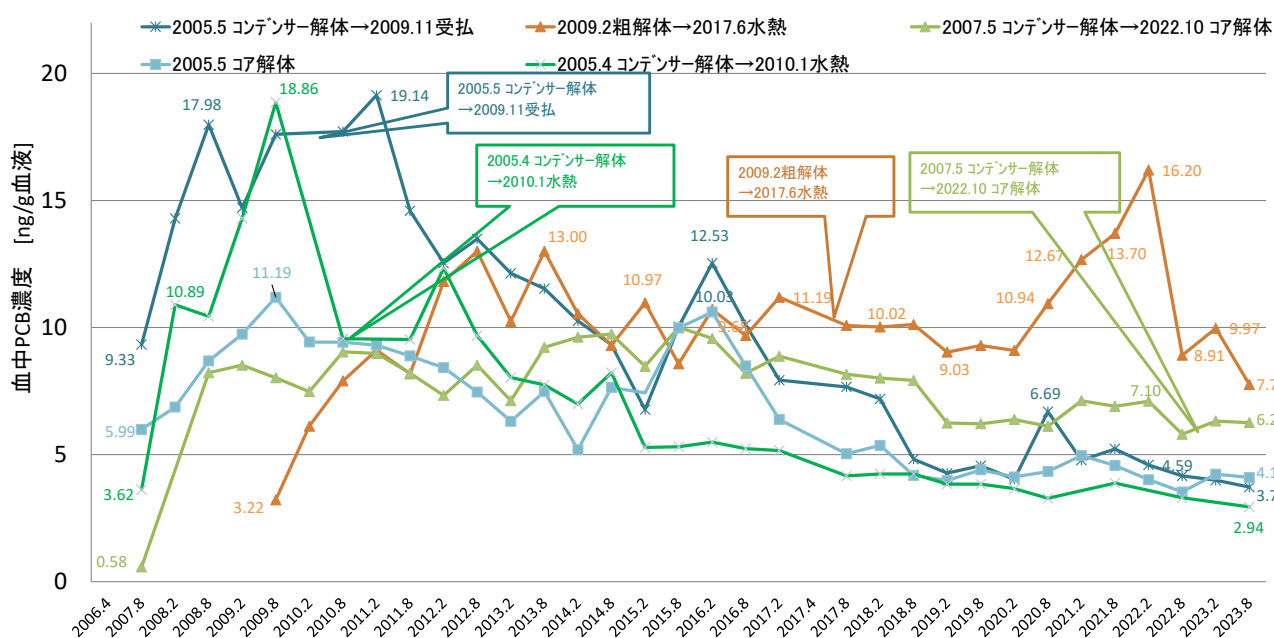


図 14 10ng/g-血液を超えたことのある作業者の血中 PCB 濃度の推移

(2) 血液中 PCB 濃度の測定結果

2023 年 8 月の定期健診では、作業従事者 84 名全員を対象に血液中 PCB 濃度測定を行った。
2022 年 8 月の結果と比較すると、比較可能な対象者は 84 名で、その内、横ばい者(年変動±1.0ng/g-血液未満)及び減少者は 80 名(95.2%)で、昨年の 112 名に比べて減少した。減少者は 1 名であった。

増加者は4名(4.8%)で、昨年の1名から増加した。

対象となった 84 名の作業従事者全員について、2022 年 8 月と 2023 年 8 月の血液中 PCB 濃度測定結果の関係を図 15 に示す。

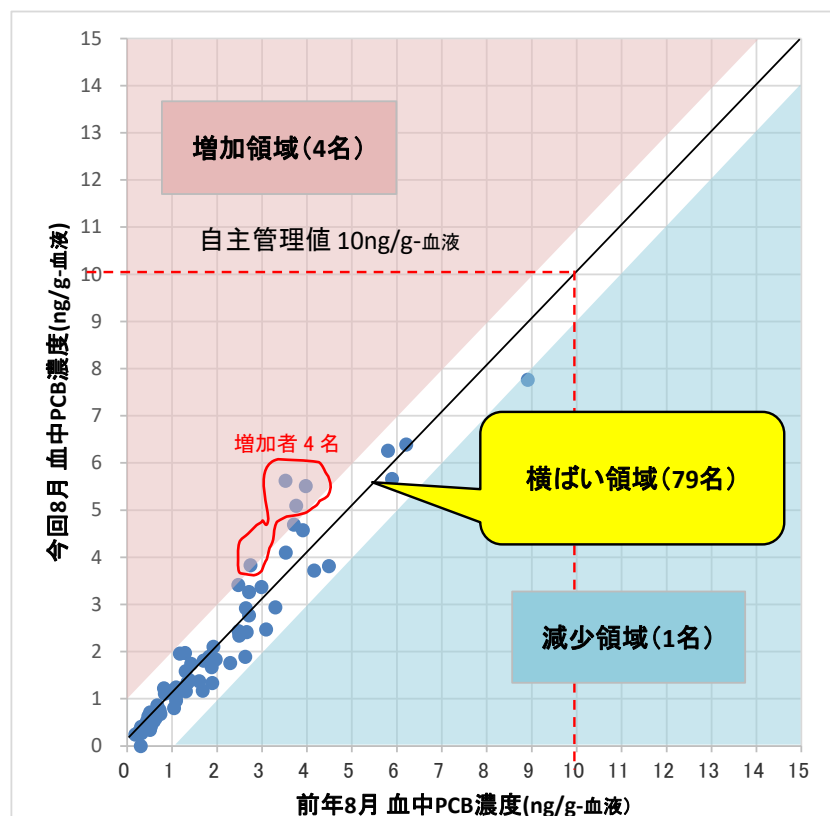


図 15 作業従事者全員の 2022 年 8 月と 2023 年 8 月の血液中 PCB 濃度測定結果の関係

(3) 自主管理目標値超過者への対応

2022 年 2 月の測定における自主管理目標値(10ng/g-血液以下)の超過者は、経過観察中の 1 名であり、その際の測定値は 16.20ng/g-血液であったが、同年 8 月の定期健康診断では 8.91 ng/g-血液、2023 年 2 月の血液中 PCB 濃度測定では 9.97ng/g-血液、今回 8 月の定期健康診断では 7.76 ng/g-血液と、自主管理目標値を下回る結果となった。

当該超過者への対応については、2023 年 6 月に作業安全衛生部会の学識者委員へ就業開始以降の健康診断結果等の関連情報を報告し、以下のような助言を頂いている。

「血液中 PCB 濃度については、基準値 25ng/g-血液自体が 2 倍の安全率を見込んでおり、基準値より低い濃度のため健康影響の懸念はない。健康診断結果の他の数値に問題はなく、特定は難しいが增加原因は体重の激減との関係も仮説として考えられる。」との見解を頂いた。

食生活の嗜好や職場における暴露経路の有無等をモニタリングしながら、引き続き経過観察することが望ましい旨の指導もあったことから、今後も作業制限により PCB 曝露のない作業への従事を厳守した上で、上記指導を踏まえて経過観察を継続し、作業安全衛生部会(本年 1 月 19 日開催)へ経過を報告した。

その後、2023 年 2 月の測定で若干の上昇傾向が見られたことから、本年 9 月に再度上記の作業安全衛生部会学識者委員へ報告を行った。

その中では、従来通り低い濃度域であり、かつ健康状態にも問題がないことから、現担務の継続を前提に、引き続き経過観察を行うことが望ましい旨の見解をいただいた。

なお、当該作業従事者の前回 2023 年 2 月の血液中 PCB 濃度測定以降の経過観察では、通常の体重を維持し、本年 8 月の健康診断結果にも異常はなかった。また血液中 PCB 濃度測定も 7.76ng/g-血液と、自主管理目標値を下回り低下傾向であることを確認した。

6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応

1)ヒヤリハット活動(HHK)の状況

2023 年度上期のヒヤリハット活動の状況を表 17、図 16 に、改善提案の状況を表 18 に示す。2023 年度上期も 2022 年度に引き続き、ヒヤリハット活動及び改善提案が多く出され、活性化が継続している。

作業員個々の危険予知の感性向上のため、積極的なヒヤリハット報告の呼びかけを継続して実施している。また、2018 年度からは、体験ヒヤリに近い想定ヒヤリは、所内で水平展開の検討対象として、できる限り報告するよう指導してきている。

ヒヤリハットは毎月運転会社より報告され、2023 年 9 月末現在で累積 8,759 件の報告書が提出されている。2023 年度では上期で 352 件(体験ヒヤリ 6 件及び想定ヒヤリ 346 件)が報告されている。

表 17 ヒヤリハットの報告件数

項目	年度															2023年度						
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年度計
リスクレベル	IV重大 (15点以上)	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ⅲ問題あり (10～14点)	6	16	18	19	10	9	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ⅱ多少問題あり (6～9点)	77	99	122	188	144	138	225	168	265	295	238	135	34	11	6	0	5	1	0	0	6
	I殆ど問題なし (3～5点)	153	163	208	250	394	569	506	503	392	426	513	700	657	745	346	41	65	72	60	53	55
	合計	236	278	349	457	553	716	732	673	659	721	751	835	691	756	352	41	70	73	60	53	55
体験ヒヤリ		167	185	150	111	135	104	44	53	29	78	87	57	22	10	6	0	5	1	0	0	0
想定ヒヤリ		69	93	199	346	418	612	688	620	630	643	664	778	669	746	346	41	65	72	60	53	55

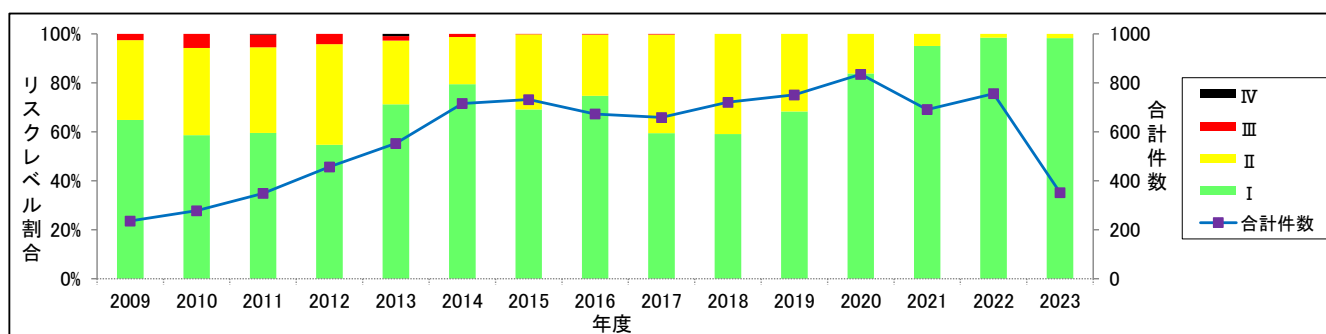


図 16 ヒヤリハットのリスクレベル割合の推移

2)ヒヤリハット報告に対する対応

ヒヤリハット等の報告に対して運転会社より改善提案書が提出され、これに対して JESCO では、安全性の改善の程度を中心に効率性やコストダウン等についても検討・協議し、リスクレベルについて分類した上で重要なものには効果的な対策を決定し、対応している。

2023 年度上期に報告されたヒヤリハットに対して実施された改善対策の主なものを表 19 にまとめた。

また、安全パトロール等で指摘された作業環境や不安全行動等の問題についても、対策を講じて安全性の向上を図っている。

表 18 改善提案の件数

効果	年度										2023年度						年度計*
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
提案件数	108	76	67	88	79	71	57	74	62	66	5	5	2	4	12	7	35
安全性・信頼性向上	75	60	61	79	59	45	37	39	26	33	2	4	1	1	10	3	21
作業性・業務効率化	77	42	57	49	47	50	32	30	22	36	3	3	1	2	7	4	20
コストダウン	9	5	1	1	0	2	1	4	0	10	0	0	0	0	0	0	0
作業環境改善	23	21	10	12	10	8	8	18	7	18	0	1	2	2	4	4	13
その他	1	2	2	6	3	2	2	8	27	20	0	0	0	1	0	1	2
合計	185	130	131	147	119	107	80	99	82	117	5	8	4	6	21	12	56

※効果区分は複数該当するものもあるため合計は提案件数を超えている。

表 19 主なヒヤリハットに対する改善対策

No.	区分	リスクレベル	件名・内容	対策
1	体験	Ⅱ	コンデンサー仕分けブース内で、廃棄物の仕分け作業を行っていた際に、頭を下に向けた状態で作業を続けていたため、首と頭が痛くなった。	定期的に背伸びをするなどして、同じ体勢を続けないようにする。
2	体験	Ⅱ	管理区域3階作業員通路で、作業員詰所の扉を開けようとした際に、内側から人が出てきたため、扉と接触しそうになった。	扉を開閉する際は、内側外側とも互いに注意する。
3	体験	Ⅱ	Eリフトからのドラム缶積み下ろし作業をおこなっていた際に、ドラム缶運搬中のポーターが足にぶつかった。	作業者近傍を通過する際は、声掛けを行う。ポーターなどが狭い箇所を通過する際は、周囲を確認しながらゆっくり移動する。
4	体験	Ⅱ	PCBタンク室レベル(液量)を確認しようとした際に、防液堤に躓き転倒しそうになった。	段差のある箇所では、足元の確認を十分に行う。
5	体験	Ⅱ	ふた中身台車上にて廃棄物の仕分け作業を行っていた際に、局所排気用のホースに躓き転倒しそうになった。	各作業箇所にて移動する際には、足元の確認を十分に行う。
6	体験	Ⅱ	給気ファン室への入室時、入口付近の水溜まりを避けようと大股になった際に、足が滑りそうになった。	雨天の屋外歩行時は、十分足元に気を付ける。

7. 教育・訓練等の実施状況

1) 安全教育・訓練の実施状況

前回報告以降に実施した主な安全教育や訓練項目を表 20 に示す。

2023 年度上期に実施した安全教育・訓練は、39 件で、延べ 1,480 名が受講した。また、定期点検期を活用して、安全衛生関連の特別教育等を実施した。

これらの様子の一部を図 17 に示す。



ハーネスによる救助訓練(5/23)



産業医による熱中症講話(6/15)

図 17 所内教育訓練の様子

表 20 主な安全教育・訓練

実施月日	教育・訓練内容	参加人員(名)
4月3日、4日、5日、7日	月例安全訓示	111 名
5 月2日、8日、9日、11日、23日	キムタオルの加熱準備OJT	21 名
5 月8日、9日、10日、11日	月例安全訓示	114 名
5 月11日、18日、19日	ISO緊急オフライン対応訓練	6 名
5 月17日、24日	特化則教育	47 名
5 月17日	操業管理システム教育	18 名
5 月17日、24日	ゴミとマニフェスト教育	43 名
5 月19日	有機溶剤教育	25 名
5 月19日、29日	安全運用教育	25 名
5 月22日	低圧電気教育	20 名
5 月22日	薬剤取扱教育	21 名
5 月22日	酸欠教育	18 名
5 月23日	ハーネスによる救助訓練	8 名
5 月24日	乾燥設備教育	17 名
5 月25日	フォークリフト・ウォークリーフト教育	12 名
5 月26日、6月12日	高圧ガス保安教育	22 名
5 月29日	粉じん教育	17 名
5 月30日、31日、6月1日	マスクフィット訓練	91 名
6 月1日、5日	月例安全訓示	95 名
6 月2日	非定常作業の災害防止	37 名
6 月5日	操業管理システム教育	5 名
6 月5日	有機溶剤教育	42 名
6 月5日	粉じん教育	34 名
6 月7日	酸欠教育	34 名
6 月7日	低圧電気教育	37 名
6 月9日	薬剤取扱教育	42 名
6 月9日	乾燥設備教育	34 名
6 月12日、13日	漏洩時対応訓練	26 名
6 月19日、20日	安全衛生推進者講習	1 名
7 月3日、4日、5日、6日	月例安全訓示	105 名
7 月11日、12日、13日、14日	挟まれビデオ教育	80 名
7 月31日、8月1日、7日、14日	保護具着用教育	13 名
7 月27日、28日、8月2日、3日	過去のトラブル事例教育	13 名
8 月1日、2日、3日、8日	月例安全訓示	100 名
8 月1日	職場配置転換に伴う安全教育	1 名
8 月16日、18日、25日、9月4日	災害事例教育	12 名
8 月18日	化学防護服水洗OJT	14 名
9 月1日、4日、5日、8日	月例安全訓示	101 名
9 月4日、5日、6日、7日、8日	化学防護服水洗OJT	18 名
2023年度上期	累計安全教育・訓練実施数 39 件	延べ参加者数 1,480名

2)総合防災訓練等の実施

2023 年度の総合防災訓練は、11 月 22 日の実施に向けて準備をすすめている。

緊急時通報訓練は年間 3 回計画としており、4 月 17 日(1 回目)と 9 月 20 日(2 回目)の実施概要を表 21 に示す。3 回目の通報訓練は 12 月下旬を予定している。

表 21 緊急時通報訓練の実施状況

実施日	訓練計画	主な訓練結果	
2023年 4月17日 通報訓練 (1回目)	○訓練目的	(1)「緊急時連絡体制表」及び「事業所連絡網」に基づく緊急時連絡体制が維持されていることを確認した。	
	夜間・休日における緊急時連絡体制が維持され、円滑な通報が行なわれることを確認する。	(2)対象者(4月度:53名、9月度:55名)に訓練メールが配信され全員から受信内容確認の返信を確認した。	
	○訓練想定(9月度)	(3)通報所要時間は、概ね1時間以内で返信した者が約90%を占めた。詳細は以下の通り	
	9月20日 18:50頃、洗浄液タンク室IPA第2タンクの元弁フランジから漏洩発生。ボルト増し締めで漏洩停止、漏洩量は約200リットル、防油堤外への流出なし。漏洩液回収作業中、完了は19:30頃の見込み。	4月度訓練結果	
9月20日 通報訓練 (2回目)	○訓練内容	返信時間	返信者割合(%)
	「緊急時連絡体制表」及び「事業所連絡網」に従い、訓練実施。	30分以内	74
		30～60分	13
		60分以上	13
	(1)緊急異常事態を中制で覚知	9月度訓練結果	
	(2)中制(当直長)より、「緊急時連絡体制表」に基づき、JESCO 運転管理課長、TEO幹部に電話連絡	返信時間	返信者割合(%)
		30分以内	69
		30～60分	22
(3)JESCO通報訓練	60分以上	9	
	運転管理課長より所長に連絡し指示を受ける。事業所連絡網に従い、事業所幹部へ連絡。各所属長(運転管理課は課付職、課		
	(4)運転会社内通報訓練		

8. 施設見学の状況

施設見学の経年状況を表 22 と図 18 に示す。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、2020 年 3 月より見学者の受け入れ停止を継続していたが、2021 年 9 月 30 日に緊急事態宣言が解除されたことを契機に、同年 10 月 4 日に受入れを再開している。

2023 年度上期は 1 件 13 名の見学者を受け入れており、感染防止対策マニュアルに従ってご案内した。

現状の見学が困難な状況への対応として、見学者用のビデオ動画を 2021 年 8 月より JESCO ホームページ上で公開して設備や処理の状況を視聴できるようにし、より多くの方々に理解を頂くよう努めている。

表 22 施設見学件数・見学者数

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023*	累計
件数(件)	65	85	130	143	147	114	69	90	92	69	68	90	78	44	36	0	4	13	1	1,337
見学者数(名)	1,048	1,310	1,938	1,669	1,578	1,292	596	823	1,235	665	861	813	816	540	513	0	13	142	13	15,852

*9月末まで

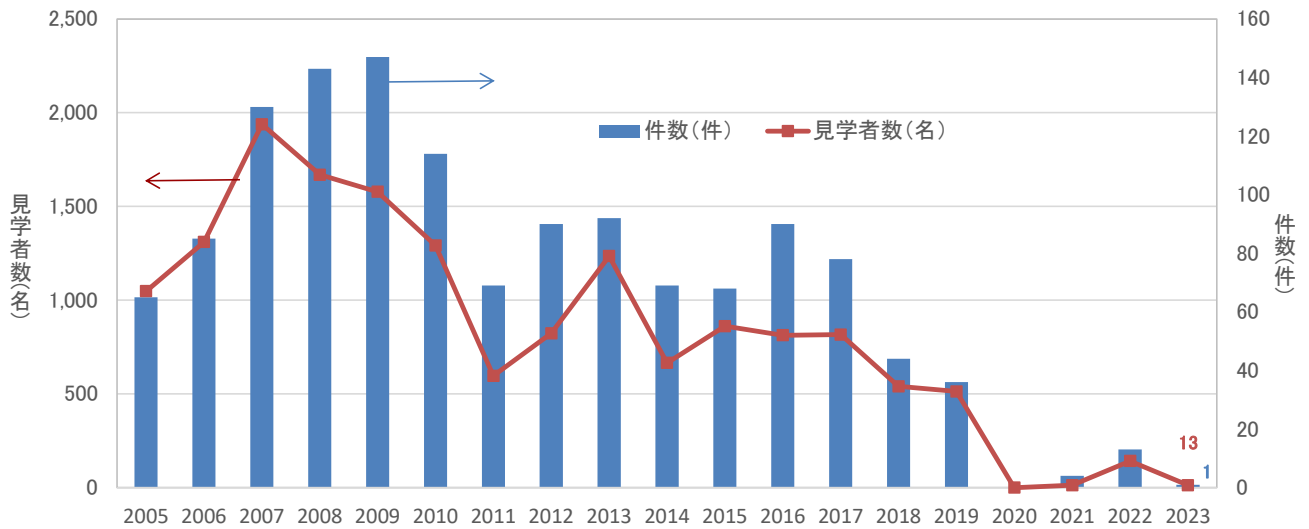


図 18 施設見学件数・見学者数

9. 2023 年度のこれまでの設備保全の実施状況

2023 年度長期保全計画(2023 年 3 月 9 日開催 東京 PCB 処理事業部会 資料-3、資料-4 参照)に基づき、定期点検(2023 年 5 月 15 日～6 月 19 日)にて設備保全を実施した。

概要は以下の表 23 のとおりである。(別紙-4 参照)

なお今後の実施予定箇所については、朱字で記載した。

表 23 2023 年度 主な設備保全の実施状況

設備名	主な 2023 年度実施予定項目	定期点検時の実施項目
① 加熱 設備	従来の定期点検を実施する。機器内部清掃は、前回定期点検からの運転時間が 10,000 時間を経過する見込みの、2023 年年末又は 2024 年年始の時期に計画する。	従来の定期点検は、定期点検中に実施した。 機器内部清掃は、2024 年 1 月に予定する。
② 洗浄 設備	2022 年 10 月 18 日に発生した漏洩トラブルに伴い、洗浄槽の液面計全数 34 台をメーカーによる点検・校正した結果は、校正しても許容誤差を超えて使用不可が計 5 台判明し、校正できた液面計の洗浄設備で処理を継続している。今後、洗浄対象量が減少するため、洗浄槽を 8 台に縮小する。その液面計は使用期間から 16 台全数を更新する。	液面計の納期が長期化している状況である。2024 年 1 月以降の納入が見込め、3 月迄を目途に更新を完了する予定である。
	防油堤(オイルパン)のシール部の点検を実施する。	定期点検中に点検を完了した。
③ 水熱分 解設備	通常実施している反応器の底部管台、熱交換器出口連絡管等の検査・補修を継続する。 蒸気漏洩トラブル以降に追加した 100℃以上の温度環境で使用される以下の配管について腐食・減肉点検を継続して実施する。	従来の点検範囲である反応器底部及び反応器管台、反応器から熱交換器出口連絡管の配管等の検査は、通常の補修範囲内であった。
	○蒸気漏洩トラブル以降に追加した点検 No. 1、2 系反応器の ・補助反応管ドレン配管 ・二重管冷却器入口/出口及び最上部のベント管	○蒸気漏洩トラブル以降に追加した点検 No. 1、2 系反応器の ・補助反応管ドレン配管(問題なし) ・二重管冷却器入口/出口及び最上流部のベント管(問題なし)
	No.1、No. 2 系反応器上流側の ・処理液再生熱交換器外管の代表部のみ点検を実施する。 (外管内の液は処理液から給水のみ変更したので腐食の可能性は低減した。)	No.1、No. 2 系反応器上流側の ・処理液再生熱交換器外管 (問題なし)
		No. 1 系反応器の上部隔壁に亀裂を確認した。補修方法を検討した結果、肉盛補修することとし、12 月を目途に補修を完了する予定である。
	2022 年度の点検結果より自動弁 23 台、手動弁 17 台の分解点検整備及び手動弁各 2 台の交換を実施する。	自動弁、手動弁については、全て定期点検期間中に分解点検、交換を実施した。

設備名	主な 2023 年度実施予定項目	定期点検時の実施項目
④ 排水処理設備	外部より飛来するダイオキシン対策管理の一貫として 2019 年より毎年度、用役排水活性炭ろ過器、液処理排水活性炭ろ過器、水熱分解活性炭吸着塔各 2 基の活性炭交換及び排水貯槽、汚水受槽、ドレンピットの清掃を実施する。	定期点検中に実施した。
⑤ 特高・高圧受変電設備	特高受変電設備の機器を構成する電装部材が、メーカーの示す交換部品推奨時期に近づいており、故障のリスクが高まりつつある。世界的な半導体不足により納期が長期化する中で部材の確保を進め、2023 年度の全停日に更新を実施する。	長納期部材のうち 2023 年度定期点検までに確保できた部材の更新を行った。残りは、2024 年度、2025 年度定期点検で更新を実施する。